

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野貞夫

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 ☎763-5110
 会長 成田良治
 幹事 鷺野義明
 会報委員長 杉浦比左夫
 小山雅弘

No. 29

ロータリーを高めよ!

思いを尽くし熱意を尽くし!

1990~91年度 RI会長 パウロ V.C. コスタ

第421回例会 平成3年2月19日(火) 曇

◇“我等の生業”

◇出席報告

会 員 68名 出席 50名
 出席率 73.53%
 前 回 2月13日 (修正出席率)97.01%

◇ビジター紹介 3名

◇お誕生日祝福

堀江君(2/16)、大谷夫人(2/18)

◇ニコボックス

成田 良治君 秋山さんに会長挨拶をお願い致しました。
 秋山 茂則君 本日はご挨拶をさせていただきます。
 足立 一成君 今日より入会させていただきます。
 西村 禎二君 2月5日の職場例会には多数のご来客を賜り心より感謝しております。
 上野 保君 ジュエリーパーティーを17、18日開催致しました。お陰様で盛大になり、皆様多くの方のご来場ありがとうございました。
 水野 民也君 うれしい事がありました。
 小坂井 盛雄君 さわらび園の島崎園長先生に卓話をお願いしました。又、先回のバザーの商品の抛出にご協力頂き有難うございました。
 佐久間 良治君 ホームクラブ久しぶりです。
 堀江 宏輝君 誕生日祝い。結婚記念日祝い。
 大谷 和雄君 夫人誕生日祝い。

◇鷺野幹事報告

1. 次回例会終了後、理事役員会を開催いたしますので、理事役員の方はお残り下さい。
2. ロータリーの友2月号がきておりますので、お帰りにお持ち下さい。

◇新入会員紹介



氏 名 足立 一成 君
 生年月日 昭和8年2月16日
 事業所 足立造園土木㈱
 千種区汁谷町107
 T E L 711-6052
 地 位 代表取締役 社長
 自 宅 千種区汁谷町107
 T E L 711-6052
 推薦者 水野 民也
 職業分類 造園
 委員会 親睦活動

◇秋山会長エレクト挨拶

湾岸戦争で考える

湾岸戦争が勃発して1ヶ月が過ぎました。いま日本国内では、90億ドル支援の是非について国論が沸いております。国会での遣り取りは新聞等でご承知のことと思いますが、党利党略も織り込まれた論戦は理解に苦しみませぬ。国民の大半は理由の如何を問わず「支援止むなし」の大勢ではないかと思っております。先日の中日新聞に岡崎の中学生が、橋本大臣に「湾岸戦争における追加支援策についての意見書」を提出したと報じていました。3年生1クラス41名それぞれが自ら感じたその儘を述べています。そして41名中35名の生徒が抛出止むなし、つまり支援賛成でした。

またその理由をみますと…支援をしないと将来国際社会の中で日本が孤立する、輸出入に影響が出る、米国の云うことだから仕方ない。まだ沢山ありましたが、すべてその背景に米国への気兼ね配慮等米国を意識した意見が多いことに気付きます。考えてみれば、戦後45年間における日本の経済復興振りは世界中の人々の驚異的でした。それは米国がクシャミをすれば日本は風邪をひくといわれる程に米国との関係を深めると共に、色々な支援を受けてきた結果です。戦後の歴史は米国あっての日本であり、日本あっての米国ではないのです。前述の中学生の意見書の結論は、以上のような日米関係の経緯を彼等の成長の過程の中で肌で感じて来た結果だと思えます。また国際社会の中の日本の置かれている立場を中学生なりに受け止めた率直な意見だと思えます。日本人の中には、反米だ、内政干渉だと大声で叫ぶ人もいますが、今ここで、もう一度日米関係を考えるべきではないでしょうか。ロータリーも米国で始まりました。そして米国主導だったから世界中に広まったと思えます。米国の力によって人権蹂躪を恣にした独裁主義的共産主義も地球上から消えつつあります。

◇講演

“障害児と共に”

さわらび園園長

島崎 左世 さん (紹介 小坂井君)



この度は、バザーへの物品等の御寄附、またブレイルームに敷くジュータンの御寄附を賜わり誠にありがとうございます。

バザーでの売上げは障害児の次の施設の建設資金として積み立てることになっております。ありがとうございました。

この子らは一身に障害を背負い、この世に誕生しました。それと共にこの子らが障害という重い荷物を生涯おろすことができず、背負い続けているがそれでもなお、何の屈託もなく生きていること、生き生きと精いっぱい生きることを通して、命の尊厳、生きていることの意味を伝えてくれています。

障害は、人としての一部分であって、感性和

いうものは、健康であり豊かなものであります。

人間の心の領域には知、情、意というものがああり、障害児は、その知の部分に欠落があるわけですが、日常性の中では、皆さんの生活を振り返っていただき、家庭生活の中での会話等をみていただいても、そんなに、高い知的水準を使ってはいません。従って日常性をうまく育てていくことと、援助の仕方が適切であれば、それなりの生き方ができるのです。

現代という、教育においても、経済社会においても、数値を重視する価値観の社会の中で、知的遅れを持ったということは、大きな打撃であり、親にとって悲しみを色濃くするものでありますし、歪みを生じさせます。まして、挫折の少ない恵まれて育った時代の人には、思いもかけない衝撃的な出来事になってまいります。

今の時代は、一見手のとどく仕合せがいっぱいだと思います。希望すればできることがいっぱいあるような錯覚に陥るくらいな恵まれた環境があるように思います。そう思っている中で障害児と言われる我が子との出会いに、心あせり、苦しむのです。

しかしそのことが逆縁となり、バネになって力強く暮らしておられる方もあります。

一流会社で部長さんをしていらっしゃるエリート社員のKさんは、外国生活もあり恵まれた中で、突然最初の奥様を亡くし、再婚した妻との間にダウン症の子どもが生まれ、次々と不幸の波におそれ、迷い悩んだ末にたどり着いた私共の施設で、人間として向き合ってくださいと言われ、障害をもった子どもたちに真剣にかかわる職員と、同じ悩みを持った親たちとふれあい、この子たちに心をよせてくださる心やさしいボランティアとの出会い等に、新たな生きざまを見出していきます。子どもに対しても性急に数値的価値を求めずゆっくりと、じっくりと関係をつけていくことを学びとりながら、自分の人生もゆとりあるものにするように、その子との関係から学んでいき、この子と共に心豊かに生きておられます。

大学教授のSさんの家庭は考えもしなかった知恵遅れの子の誕生にショックを受けます。父親は仕事(学者としての自分だけの仕事)に集中する、そうしないとおれない、仕事に逃げられるだけ家族との接触を避ける、つらくてつらくて、そうしないとおれなかったようです。一人でいる時、涙がこぼれて仕方がなかった、仕事に没頭しているしか仕方がありませんでしたと述懐しておられます。

ある日、奥さんにこの子を抱えて下さいと言われ「ハッ」とする、彼女は自分が避けているこの子と毎日取り組んでいるんだと思った時、僕は何をしていたんだ、一緒に考えて

やらなくてはと思うようになって、この子を抱きしめる、胸のうずきに初めて人間として抱きとっていく気持ちになったと言っておられます。

こういった心のプロセスを共にしながら、人間の弱くて淋しい、孤独な出会いの中で真に人間として生きていくことを家族と共にわかち合っておられる姿に、心洗われる思いをいたします。

私共は、こういった家族が街の中で、そこに暮らしをたてているまわりの人の支援で、多くの人々とふれあいながら人間らしく暮らしていければと願っております。そのためにもこの子らが小さい時からの治療教育に力を入れているのです。

私自身、父の仕事柄、外国生活が多かった中で戦争の真っ直中、家族と共にリュック一個を背負って引揚げてまいりました。その大変な道のりの中で何とか命ながらえてたどり着いた日本の土に足を踏み入れた時、生きてここまで来れたことを、何かで返すことをやって行かねばと思いました。その道のりの中で多くの人々との出会いは、深い愛の学びを教えられたように思います。その愛を返していきながら、愛することの仕合せを人から人へと伝えられるのは、この子らの生命の輝きに会えることができたおかげだと思います。

私共の心身の健康さは、私共に代って障害を背負ってくれたこの子らの命に支えられているとも言えると思います。それは、人類が続く限り永遠に続いていくものだと思います。

どうぞ、今後とも御協力をお願いします。この度は、ありがとうございます。

◇次回例会(2月26日)

講演 “ドラゴンズ・ベンチ情報”

東海ラジオスポーツ課長

犬飼 俊久 氏 (紹介 木全君)

◇次々回例会(3月5日)

講演 “金融の自由化雑感”

会員 今井 浩登 君

◇ガバナーズ・レターより

ロータリーエッセイV 和合RC
インテリジェンスサービス 井澤 廣一

ロータリークラブは公共に対する奉仕団体として世界中の人から認知されている。したがって各クラブは競って諸団体ならびに個人に対するマネーサービス(金銭による奉仕活動)とハンドサービス(労働やマンパワーによる奉仕活動)に力を注いでいる。そしてそれらの行為は全世界から大いに賞賛されている。

しかしながらよく考えてみると、職業別に選ばれた優秀な紳士諸君即ちロータリークラブのメンバーは、各々マネーやハンドに先んずるピカールの頭脳を持っているわけだ。どうしてこの頭脳つまりインテリジェンスを素直にサービスに向けないのか、このことが、私がロータリークラブに参加してからずっと疑問として頭にあった。

そこで或る年度選ばれて社会奉仕委員長になった時、思い切ってインテリジェンスサービスなるものをクラブ内で提案してみた。その内容は、まず自己の得意とする分野に関する60分のスピーチをノーギャラで奉仕すること、そのために予めクラブにスピーチのテーマを登録することにした。そして要求の電話のあり次第日時、場所等の打ち合わせを行い、スピーカーをクラブ名で派遣することとした。

なに故にこうした構想を立て得たかというところ、テリトリー内の公共団体即ち市町当局、教育委員会、社会教育団体、老人学級、各種婦人会、学校などでは、年次総会などに講師を必要とするが予算が無く立往生している実態を知ったからである。これら団体に予めクラブの講師一覧表を配布しておくことと忽ち反応があり、初年度なんか年間10数件の問い合わせがあり、その半数くらいが実行できた。

これこそ頭脳集団であるロータリークラブのプライマリーサービスであると確信したことが、ありがたいことにそれ以後歴代の各ガバナーからおほめの言葉をいただいている。

例会出席者のレベルアップを

岡崎4RCは例会出席者のレベルアップについて下記の申し合せを行った。

1. 通常ロータリークラブの例会は1時間(点鐘から点鐘迄)が原則で、止むを得ぬ場合に限り60%の在席を以て出席扱いにするものであります。従って自、他クラブを問わず止むを得ず中途退席される場合は前以てS・A・Aに連絡して下さい。
2. 無断欠席は例会開始24分後迄、明確な出席状況が分からず、又食事その他の準備に大変な迷惑を生ずるので、出席委員会、S・A・A、事務局等の立場を考慮して、欠席の場合は必ずご連絡下さい。
3. 食事中は大いに楽しく語らい、報告及び卓話の時間は極力私語を慎んで頂くようご協力下さい。

岡崎RC 岡崎東RC 岡崎南RC 岡崎城南RC



モスクワRC訪問記

名古屋北RC
富田 昭

1990年3月27日、ちょっと気にかかるニュースが私の好奇心を捕えた。それは共産圏で初めてのロータリークラブがモスクワに設立されたという記事である。まだついこの間ベルリンの壁が崩壊、私たちを新聞、テレビの前にくぎ付けにしたあの世紀のドラマが開幕したばかりなのに、そのあまりにも早い改革には思わず目を疑った。

残念ながら私たち昭和一けたのソ連といえはそのイメージはあまりにも暗い。そんな気持ちの中に何か温かいろうそくの光がポーと一つともらった感銘を受けると同時に、何が何でもその移り変わりをこの目でしかと見届けたいと飛び出したのが今回の旅であった。

すなわち第一の目的は私たちと全く異次元の73年間を経た国に突然できたロータリークラブに出席してみることに、そして第二としては、本当に短いしかも都市だけの旅ではあるが、自由化の大きな波の中でその街々は一体どんな顔をしているのだろうか、といったやじ馬根性での出発であった。

さて私の着いたモスクワ空港の到着ロビーは残念ながら決して快適とは言えなかった。よく空港はその国の顔などと言われるが全く暗くて汚い。しかし飛行の途中で添乗員さんからさんざん聞かされた、1時間ないし2時間はかかると言われた入国と税関手続きはあつというまのフリーパス。後で聞くとところによれば彼がちょっと薬を効かせたとか、これが私たちの最初におめにかかったペレストロイカなのかと思った。取りあえずホテルにチェックイン、まず最初の目的であるロータリー例会場に飛んでいった。例会は火曜日の午後7時から住宅地にあるひっそりとした古風なレストランを会場として毎週行われている。最初、日本のニュースでは25人で発足とあった会員はすでに37人、国営企業の幹部、学術関係の専門家、医者、弁護士等と、いずれも時流の先端をいく人たちである。ちなみに街ではほとんど通用しない英語がここでは



通じる。当日はビジターとして米国人3人と私を含め日本人3人であったが、例会はビジターを紹介すると同時に最後まで英語とのバイリンガルで行われたのには全くの驚きであった。私としては長い間、全く体制の異なった国の中に、このような組織が芽生えたことに大きな喜びを感じ、その気持ちの一端でも伝えることができたかと来たのであるが、同じロータリーの仲間として丁重に歓迎され、本当に出席できて良かったと思った。ただ感じたままを言えば、この例会の雰囲気も何となく暗くて重いのである。ロシア人は一人一人としては素朴で明るいとかの本で読んだ記憶があるが、こうして集まってみると重くて固い。彼らの日常に大きな影響を与えた73年の過去がこのへんにも顔を出しているのではないかと思った。もう一つ、ビジターフィーのことであるがこれもちょっと気にかかる。米ドルで15ドル請求され払ったのであるが、いろいろの事情があるにしろ明日のソ連をリードすべき顔触れの席で外国人の私たちになぜグループで請求しないのか、いまだに私の頭に引っ掛かっている問題である。とにかく短い都市だけの旅行はあったが、考えさせられることの多い旅であった。かの有名な長い行列、デコボコの舗装道路、ドルと煙草に集まるタクシー、食事の給仕よりもやみのキャビアを売るのに忙しいホテルのボーイ、検札かと思ったら寝台車の個室に土産物を並べ最後は自分の金ピカ制帽まで10ドルで売ってしまった車掌。ほんの一つまみの点描ではあるが、これでは自由経済社会の建設にはその基本となる部分でまだまだ長い道のりがかかることであろう。何はともあれ、国民一人ひとりがもっと汗を流すことを身につけることが今一番大切なことだと思った。今まで73年間、ずっとバレーボールしかしてこなかったのに、急にバスケットボールをする必要にせまられている。しかし、だれもルールがわからない。日本を旅立つ前に読んだこんな言葉が、一日も早く過去の出来事となることを祈る次第である。